

高校生・大学生の多国間交流プログラム

# アジアユースリーダーズ 2016

in バンコク

## 実施報告書

公益財団法人

イオン1%クラブ

## アジア ユースリーダーズ 2016 in バンコク

# 実施報告書

平素より、公益財団法人イオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。  
標記の件につき、下記の通り、ご報告申し上げます。

### 記

【1】事業名：アジア ユースリーダーズ

【2】概要：アジア 6 国からの高校生・大学生が一堂に会し、開催地域の環境や社会問題をテーマにしたディスカッションを通じて、価値観の多様性を学ぶと共に、テーマに関する改善・解決策を政府に提案するプログラム。

- 高校生の部：市民の視点で、バンコクの河川をきれいにするために、どのようなキャンペーン活動ができるか。
- 大学生の部：国、政府の視点で、バンコクの河川をきれいにするために、企業、施設、工場等に対し、新しく提案できることは何か。



↑中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、ベトナムの6ヶ国で構成されたチームでディスカッション

【3】目的：

- 開催国の環境・経済・社会等の問題についてディスカッション・発表(英語)を行い、多国間交流を通じて価値観の多様性を学ぶとともに同世代の友人ネットワーク構築の機会を提供する。
- 次代を担う若者の社会・環境問題に対する意識の向上、並びに、グローバルリーダーを育成する。
- 現実的な社会・環境問題についての学習、視察、チームディスカッションを通じ、解決に向けたロジックを磨く。

【4】日程： 2016年8月21日(日)～27日(土)

【5】開催国： タイ・バンコク  
(2010年より毎年開催地を変えながら実施)

【6】テーマ： 水質保全問題

|         |        |     |     |    |     |     |         |
|---------|--------|-----|-----|----|-----|-----|---------|
| 【7】参加者： | 中国     | 高校生 | 10名 | 及び | 大学生 | 10名 |         |
|         | インドネシア | 高校生 | 10名 |    | 大学生 | 5名  |         |
|         | 日本     | 高校生 | 16名 |    | 大学生 | 9名  |         |
|         | マレーシア  | 高校生 | 5名  |    | 大学生 | 10名 |         |
|         | タイ     | 高校生 | 11名 |    | 大学生 | 10名 |         |
|         | ベトナム   | 高校生 | 10名 |    | 大学生 | 5名  |         |
|         |        |     | 62名 | 及び |     | 49名 | → 計111名 |

【8】プログラム構成：

- 8月21日 出発、オリエンテーション、ウェルカム・レセプション
- 8月22日 タイ文化活動体験・チームビルディング活動
- 8月23日 ①「バンコク水質保全問題」についての講義
- チュラーロンコーン大学 副学部長 ピースト パインマナクル 様
  - チュラーロンコーン大学 准教授 パティパーン プニャパアラクル 様
  - チュラーロンコーン大学 教授 オンアノン ラルパリスディ 様
- ②視察・講義
- 施設内を循環する水質管理についてのレクチャー、天然洗剤づくり体験（シラムパーク）
- 8月24日 視察・ヒアリング活動
- 水浄化の3行程と排水処理について 見学（バンスー環境教育保全センター）
  - 水浄化の行程について 見学（ディンデン環境管理センター）
  - ヒアリング活動（ゲートウェイ エカマイ ショッピングモールにて）
- 8月25日 グループディスカッション
- 8月26日 ①プレゼンテーション
- ②表彰式、キャンペーンと問題解決の政策を政府へ提言、ホスト国代表生徒への提言引き継ぎ式
- ③フェアウェル・レセプション
- 8月27日 帰国

【9】新しい取り組み：

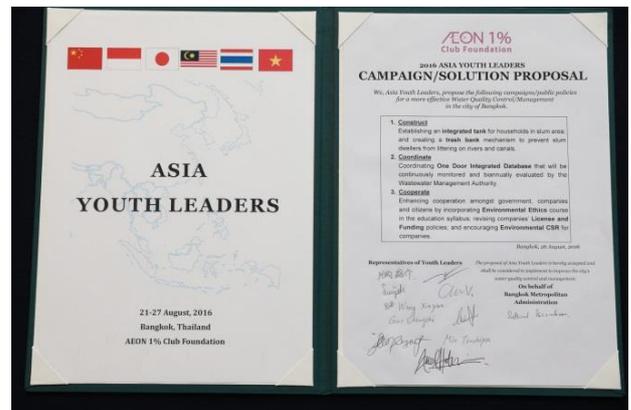
高校生、大学生各優勝チームの提言内容を実践実践するため、ホスト国であるタイ高校生、大学生へ引き継ぎ式を実施。

【10】バンコク政府への提言の内容：



高校生からのキャンペーン提案

- ① CM とキャッチーな歌を通じて、水質汚濁問題に対しての人々の意識と行動を変える。
- ② 水質汚濁問題への関心を高めるために、水をきれいにする活動に貢献し成果をあげた人々に対し政府からの表彰や援助を促進する。
- ③ 若い世代向けに水質汚濁問題についての専門的カリキュラムを構築する。



大学生からの政策提案

- ① 生活排水の河川への垂れ流しを防ぐために下水タンクを各家庭に設置する。
- ② 水質管理政府機関が一か所に集約できるデータベースを構築し、半年ごとに評価を実施する。
- ③ 政府、企業、市民が協力し合い、環境倫理についての教育促進、ライセンスや資金集めの方針改訂、企業の環境に対する社会的責任の意識向上に努める。

【11】実施活動の様子：

ウェルカム・レセプション & チームビルディング活動（8月21日-22日）

▶チームビルディング



↑初めて会ったチームメンバー内で名刺を配り自己紹介



↑各チームからチームリーダーとサブリーダーを選出

▶ウェルカム・レセプション

主な出席者

- 在タイ日本国大使館 次席公使 福島 秀夫様、一等書記官 寺島 史朗様
- 在タイ 中華人民共和国大使館 一等書記官 ツアオ ジョウホア様
- 在タイ ベトナム社会主義共和国大使館 参事官 ヴュ トラン フォン様、
- トリナムウドムスックサー高等学校 英語科主任 チュダラット チャローンラック様、英語科主任 アイムサ フォンサワット様
- タマサート大学 シリントーン国際工学部 副学長 チャーリー チャロエンラノパルット様、教授 ピサヌー トーチンダ様
- NIDA 大学 教務課 副会長 タンオン ムンジャイトン様
- イオン保険サービス タイランド株式会社 代表取締役社長 サカラポップ ディワラカラ様
- ACS キャピタル株式会社 代表取締役社長 川村 邦夫様
- イオントップバリュ タイランド株式会社 堀井 健治様
- イオンファンタジー タイランド株式会社 代表取締役社長 石坂 匡則様
- イオンタイランド株式会社 代表取締役社長 生田 政光様、管理本部長 菅沼 哲也様
- イオンタナシンサップ タイランド株式会社 代表取締役社長 浅沼 清保様、常務取締役 スポーン ワタナウエケン様

|          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 国別リーダー数： |           |         |
| 中国：0名    | インドネシア：2名 | 日本：3名   |
| マレーシア：3名 | タイ：1名     | ベトナム：1名 |



(歓迎のご挨拶より抜粋)

中国、日本、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム 6ヶ国からの高校生・大学生の皆さまにお会いできて大変嬉しいです。このプログラムは、参加者の皆さんにとって、今回のテーマである水質保全問題に関連する施設訪問やチームディスカッションを通じて解決策を提案する非常に素晴らしい機会です。同時にまた、大学にて専門分野を研究している教授からレクチャーを受けられる絶好の機会でもあります。皆さんは未来のリーダーです。本プログラムを通じて、多くの友人をつくり、できるだけ たくさんの事を学び、そしてチャレンジしてください。タイの文化にも触れるチャンスであることも忘れて下さいね...

タイ王国 国家改革委員会  
ドゥシット クルアンガム 様



在タイ日本国大使館  
次席公使  
福島 秀夫 様

(スピーチより抜粋)

多様なバックグラウンドを持った皆さんが、チームになって一つの事に取り組むプログラムに参加できることは、将来に役立つ非常に貴重な経験になるはずですが、バンコクはとてもエキサイティングな場所ですので、できるだけ たくさんの文化体験をし、積極的に仲間たちと交流していただきたいと思います。こうした活動には大使館として今後とも応援しますので、バンコクでの滞在を楽しんでください...



イオン タナシンサップ タイランド株式会社  
代表取締役社長  
浅沼 清保 様

(スピーチより抜粋)

2010年からは始まったアジアユースリーダーズは今年で7回目を迎えます。次世代を担うアジア6ヶ国の学生が一堂に会し、バンコクでの環境、経済や社会問題をテーマにディスカッションを行い、問題の解決に向けて政府に提案するとともに、多国間で議論を交わすことで価値観の多様性について理解を深めることができる貴重な機会と考えております。ここにいる学生の皆さんには、本プログラムから学んだ経験及び知識を、帰国した後も自国のため、そして自分自身のために実践できる様、頑張ってくださいと思います...

在タイ各国大使館、  
バンコク政府の代表、  
現地企業代表者を  
囲んで記念撮影をする  
各国学生



同国大使館 ツアオ ジョウホア様と  
中国チーム全員



同国大使館 スバンドリオ様と  
インドネシアチーム全員



イオンタイランド 生田社長と  
日本チーム代表



同国大使館 ヴュ トラン フォン様と  
ベトナムチーム代表



同国大使館 ジョアン イクラム アハマッドルスリ様と  
マレーシアチーム代表

▶ ホスト国（タイ王国）の歓迎パフォーマンス



↑ 歓迎パフォーマンスを披露するタイ高校生（写真左）と大学生（写真右）



↑主賓 タイ王国 ドウシット クルアングム様（前から3列目中央）を囲んで記念撮影

▶タイ文化活動体験・チームビルディング



↑タマサート大学キャンパス内にてタイ文化を体験し、次第に打ち解けていく各国学生  
（タイ伝統舞踊体験、タイ風卵料理づくり、タイ伝統楽器演奏体験）

## 「バンコクの水質保全問題」についての講義・視察（8月23日ー24日）

### ▶バンコク水質保全問題についての講義



↑「排水処理とその浄化の仕組み」について講義を受ける学生



↑積極的に手を挙げて質問する各国の学生

### ▶視察・講義



↑「サイアムパーク施設内を循環している水の浄化方法」について講義を受ける学生



↑講義内容について質問するマレーシア大学生



↑水の浄化方法についての具体的な説明に聞き入る各国学生



↑果物等を材料にした天然洗剤づくりに挑戦する高校生チーム

▶視察・ヒアリング活動



↑バンサー環境教育保全センター 副所長 スティモル  
ケッソンプーン様に質問をする各国学生



↑排水処理のプロセスについて説明を受ける各国学生



↑水の浄化方法について質問をするインドネシア高校生



↑排水処理施設の臭気の強さに思わず鼻を手で覆う中国高校生  
(写真右)



↑バンコク市の人々にインタビューをする各国学生 (ゲートウェイ エカマイ ショッピングモールにて)



ディスカッション・プレゼンテーション・表彰式・提言発表（8月25日～26日）

▶ディスカッション・プレゼンテーション



↑発表に備え、チームディスカッションをする高校生(左)、大学生(右)



↑ターゲットを若者に絞ったキャンペーンについてプレゼンテーションをする高校生



↑「組み立て」、「連動」、「協力」の3つのキーワードを使ってプレゼンテーションをする大学生



↑審査員

(左上から) A)バンコク市政府 排水・下水局 衛生エンジニア ケイトラチャダ クランロン様、B)バンコク市政府 排水・下水局 副所長 スティモル ケツソンプーン様、C)南開大学 環境科学工学 生物資源 廃棄物再生技術工学センター 教授 李 維尊様、D)タマサート大学 シリントーン国際工学部 副学長 チャーリー チャロエンラパルット様、E)トリラムウドムスックサ-高等学校 英語科主任 アイムサ フォンサワット様、F)チュラロンコン大学 水産資源工学部 スパトラ ヴィセスリ様、G)NIDA 大学 教務課 副会長 タンオン ムンジャイトン様

▶表彰式・提言発表



↑記念撮影をする1位の高校生・大学生チームメンバー



↑バンコク市政府 排水・下水局 副所長 スティモルケツソンプーン様へキャンペーンと政策を提言する優勝チームリーダー（高校：Dチーム（写真左）、大学：Gチーム（写真右）



↑アジアユースリーダーズ2016 in バンコクのプログラム参加認定書を受けとる高校生

▶ホスト国代表生徒への提言引き継ぎ式



各優勝チームが提言内容を実践するため、ホスト国であるタイ高校生、大学生へ引き継ぎ式を実施

↑1位の高校生・大学生のリーダーから提言を引き継ぐアジアユースリーダーズホスト国のタイ高校生と大学生代表

リーダーよりメッセージ



日本人高校生

今回のプログラムで視察した場所やヒアリング活動を通じて、私たちがチームプレイによって考え出した提言を実践してほしいと思います...



マレーシア人大学生

アジアユースリーダーズはこれで終わりではありません。私たちチームが考えた提言をどこかで実践し、その結果がどうなったかを教えてください...

フェアウェルパーティー（8月26日）



↑中国



↑インドネシア



↑ベトナム



↑マレーシア



↑日本

各国の伝統舞踊を披露する学生たち

【12】参加学生の感想（アンケート、インタビューより抜粋）：



中国人高校生

チームメンバーの一員として、前向きな姿勢でグループワークに取り組む事と、メンバーの意見をきちんと聞くことが大事だと学ぶことができました。施設見学を通して河川をきれいにするために必要なプロセスについて理解を深められただけでなく、今後はボランティア活動に参加してみたいと思いました。勉強して知識を高めるのも良いですが、実際にトライしてみることも大事だと思います...



中国人大学生

私は、このプログラムを通じて結論づけたことを、家族や友人と共有したいと思います。チームワークを通して、自信と情熱を持って、何事にもチャレンジすることが大切だと思いました。せっかくのチャンスなので、難しいと感じてもチームリーダーに挑戦すればよかったと思っています。今後は、さらなる多様性が持てるので、今回の6カ国以外の国からの参加者を加えるべきだと思います...



インドネシア人高校生

チームディスカッションを通じて様々なことを学びました。それぞれのチームは、メンバーの出身が5ヶ国とバラバラなので、国が違えば考え方も違う事を実感しました。リーダーシップスキルについてもチームメンバーそれぞれの意見を尊重することで、皆の意見を反映した提言をバランス良くまとめることができましたと思います。インドネシアに帰った後に、チームでまとめたアイデアを実践してみるつもりです...



インドネシア人大学生

このプログラムを通じて、多くの異なる文化的違いや考え方を知ることができました。グループワークを経験して感じたことは、それぞれのメンバーの意見や主張を聞き入れる忍耐強さが大切であると改めて学ぶことができました。プログラム中に様々な経験をしてみて、バンコクに関する法律についてもっと勉強してみようと思いました...



日本人高校生

私は、異なる文化や価値観を持つ国の人たちとの交流と、水質保全について何か自分で行動に移せることを見つけられればと思い、このプログラムに参加しました。帰国後には、プログラムで勉強したことについて、学校でプレゼンをしたいと思っています。ポスターをつくることで、どの様にして水を節約したりきれいにしたりできるのかについても発表したいと思っています。英語についてももっと勉強して異文化交流に役立てたいです...



日本人大学生

バンコク市の水質管理施設に視察に行った時に、実際に副所長からのレクチャーを受講できて良かったです。レクチャー後も直接話をする事でバンコク市の水質問題の現状とその対策について理解を深めることができました。チームでのディスカッションでは、全員メンバーの意見をよく聞いていることに気が付きました。誰かが発言している時には、作業を一旦やめて聞く姿勢が勉強になりました...



マレーシア人高校生

チームディスカッションを通じて、意見のまとめ方について学ぶことができました。チームメンバーはそれぞれ違った考え方を持っているの、それを聞き入れることでチームとしての結論をまとめることができましたと思います...



マレーシア人大学生

帰国後は、このプログラムで学んだ貴重な経験について家族や友人と共有するだけでなく、環境問題についての関心をより高めるために大学で発表したいと思っています。英語については、他の国からの参加メンバーの意見を聞いているときに、発音に少し違いがあってわかりづらかったので、もっと勉強してリスニングのスキルを上げたいと思います...



タイ人学生

プログラムが終わって思ったことは、言葉の壁はさほど大きな問題ではないということです。各国からの参加者は皆社会的で良い人ばかりでした。チームでの行動を通じて、文化や価値観の違いについて勉強になりました。大学教授や視察先での市政府の方からのレクチャーは、水質保全問題について理解を深められただけでなく、実際に実践できることを見つけようと思いました...



タイ人大学生

アジア5各国の皆さんと異文化交流することで、多くの新しい経験やチームワークの大切さについて学ぶことができましたと思います。今回のプログラムでできた友達と今後も連絡を取り合って、環境問題について意見を交換していきたいと思っています...



ベトナム人高校生

グループワークを経験して感じたことは、それぞれ国も文化も宗教も違うので、同じやり方ではないということでした。ディスカッションをする時には、もっと人の意見に耳をかたむけなければならないと思います。プログラムで学んだことは、小さなことでも実際に行動に移すことだ大事であると思います...



ベトナム人大学生

このプログラムは、リーダーシップスキルを学び、さらにそれを高める非常に良い機会でした。アジア5か国からの参加者であるチームメンバーとは、一緒に多くのことを学び、共有できたと思います。チームで行動することによって、沢山の友人を作ることができました...



審査員

本プログラムの6ヶ国からの参加学生たちは、非常にやる気に溢れ、タンマサート大学でのアイスブレイキングでは、精一杯チームで活動していました。学生たちにとって、考え方や文化的違いを経験する非常に良い機会であったと思います。今回のテーマは水質保全問題であり、専門的な分野に偏りすぎない様に学習プログラムを組むのが難しかったのではないかと感じましたが、学生たち同士で国際的なネットワークと友好関係を築ききっかけにもなったのではないのでしょうか...

チャロエンラノパレット チャリー さん  
(副学長、タンマサート大学 シリントン国際工学部、タイ)

以上